

【方法と結果】小児FHヘテロ患者6名(5名は前投薬あり)においてピタバスタチン投与前と1mg, 2mg投与後の脂質値の変化と副作用を評価した。LDLCは1mgで15%, 2mgで27%低下した。4名は2mgでLDLC管理目標を達成した。TCは1mgで10%, 2mgで20%低下した。HDLCとTGは変化しなかった。全例で副作用症状はなく、CKは軽度上昇した症例はあったが正常範囲内で、AST, ALTは変化しなかった。

【考察】管理目標を達成しなかった2名は治療開始前のLDLCが高値だった。ピタバスタチンはLDLCを低下させるが症例により目標に達しない可能性がある。副作用の発現はなかった。小児FHヘテロにおいてピタバスタチンは安全で効果の期待できる薬剤と考えられる。

6 重症低血糖を契機に発見されたIGF-2産生腫瘍によるNICTHの1例

張 かおり・金子 正儀・佐藤 陽子
松林 泰弘・松永佐澄志・岩永みどり
山田 貴穂・藤原 和哉・羽入 修
曾根 博仁・福田いずみ*・長嶋 洋治**
新潟大学医学部
血液・内分泌・代謝内科
日本医科大学 内分泌糖尿病代謝内科*
東京女子医科大学病院 病理診断科**

【症例】68歳, 女性。

【主訴】低血糖。

【現病歴】2016年4月話し方がおかしい等の異常に家族が気づき近医神経内科を受診, 頭部CTは異常なし, 血糖31mg/dlと低血糖を認めた。低血糖補正で症状改善, 重症低血糖の精査加療目的に入院となった。低血糖時IRI<1.0 μ IU/ml, CPR 0.10ng/ml, IGF-I, GHも低値であった。負荷試験正常, 薬剤性等も否定的, CTにて左腎腹側に長径10cm大腫瘤を認めIGF-II産生腫瘍が疑われた。腫瘍摘出後, 低血糖は消失した。Western blotting法にて術前には大分子量IGF-IIを認めたが, 術後消失した。病理にてsolitary fibrous tumorの診断, 免疫染色でIGF-II陽性で

あった。

【考察】IGF-II産生NICTHは稀な疾患であるが, 巨大腫瘍性病変があり低血糖を呈する場合, IRIやIGF-Iが低値であれば, その可能性を考える必要がある。

7 エラストグラフィーを使用した甲状腺結節診断

宮腰 将史・井上 浩子*

筒井内科クリニック
新潟県保健衛生センター*

甲状腺結節診断において, 触診での硬さも診断の重要な要素である。生体内の組織のひずみから相対的な硬さを高速演算する複合自己相関法が開発され, 近年甲状腺疾患の診断にも有用性が注目されている。

当院では, 平成23年10月より良悪性の鑑別が必要となる甲状腺結節全症例を対象に用手圧迫法, 複合自己相関法によるエラストグラフィーを施行している。判定には, Grade分類を用いている。

平成28年度に当院で確定診断された甲状腺結節は, 乳頭癌37例, 濾胞腺腫9例, 濾胞癌3例, 腺腫様甲状腺腫1例, 未分化癌1例だった。乳頭癌は1例を除くすべてがGrade3または4, 濾胞癌はすべてがGrade3または4だった。濾胞腺腫は, Grade1または2が56%, Grade3が44%だった。Grade3は, 被膜や脈管に浸潤していない濾胞癌であった可能性も示唆される。

細胞診で診断困難な甲状腺濾胞癌の鑑別に, エラストグラフィーの所見は有用な情報と考える。

8 当院における妊娠糖尿病患者の産後追跡管理について

宗田 聡・川田 亮・渡辺 聖央
安楽 匠・阿部 正夫・森川 香子*
倉林 工*

新潟市民病院 内分泌・代謝内科
同 産科・婦人科*

妊娠糖尿病(GDM)の発症率は約12.1%とされ,